

除, 腸々吻合術, 人工肛門造設術, 手術所見では, 腹膜播種による小腸狭窄と小腸絞扼, 右卵巢転移を認めた. 現在, 外来通院加療中である. 大腸癌の脾転移症例は稀有であり, その文献考察を加えて, 1例報告する.

32) 術後早期に骨転移をきたしたびまん浸潤型直腸癌の1例

富田	広	山崎	俊幸
齊藤	英俊	千田	匡
須田	武保	内田	克之
酒井	靖夫	佐藤	信昭
畠山	勝義		

(新潟大学第一外科)

大腸癌はびまん浸潤型癌はまれであり, その予後は極めて不良である. 術後早期に骨転移, 骨髄転移をきたしたびまん浸潤型直腸癌の1例を報告し, 過去の症例を含め, 21例について検討した. びまん浸潤型の頻度は0.6%であった. 性別は男:女=12:9, 平均年齢は64.8歳であった. 組織学的にみると, 高分化腺癌3, 中分化腺癌3, 低分化腺癌10, 印環細胞癌5例であり, 全例ssあるいはa<sub>1</sub>以上の深達度を示した. 開腹所見では19例中13例がStage IV以上であり, そのうち8例が非治癒切除に終わった. 予後は21例中19例が原病死していた. 特に低分化腺癌, 印環細胞癌では進行例が多く, 1年以内に全例死亡し, 極めて予後不良であった. びまん浸潤型を組織型から分化型癌と未分化型癌の2つに分類したところ, この分類法は臨床および組織学的特徴と対応しており, 実際の臨床面でも十分有用と考えられた.

33) 当院における大腸癌肝転移の手術成績

尾池	文隆	宗岡	克樹
高木健太郎	長谷川正樹	(新潟県立中央病院)	
真部	一彦	小山	高宣 (外科)

当院で最近6年間に経験した大腸癌肝転移切除症例(25例)を対象に手術成績を検討した. 原発は, 結腸癌15例, 直腸癌10例. 同時性が15例, 異時性が10例で, 異時性における初回大腸手術からの期間は平均24ヶ月であった. 転移巣数は1個13例, 2個5例, 3個以上7例で, H1が17例, H2以上が8例であった. 術式は, 部分切除8例, 亜区域一区域切除11例, 肝葉切除7例であった. 死亡例の再発形式は, 残肝再発10例, 肺転移3例, 骨転移2例, 局所再発2例, 腹膜播種1例, 皮膚転移1例であった. 結果は5年生存率12%で, 同時性のものと異時性のものに生存率の有意差無く, H1とH2ではH1の方が予後がよかった. 今回得られた生存率は充分とはいえず, 術中echo等による転移巣検索の徹底, 適応の再検討,

術式の追求などが必要と思われた. また異時性肝転移の非切除例には発見が早ければ切除可能となったものもあると思われ, 大腸癌手術後の綿密なfollow upが重要であると考えられた.

34) 大腸癌の肝転移に対する治療成績

筒井	光広	佐々木	寿英
加藤	清	佐野	宗明
梨本	篤	土屋	嘉昭
牧野	春彦	千田	匡
岡田	貴幸	小林	浩司 (新潟県立がんセン)
南村	哲司		(ター外科)

当科における1982年から10年間の大腸癌手術例は866例で肝転移を認めた症例は143例であった. 同時性肝転移102例, 異時性肝転移41例に対して各々肝切除が26例, 14例行われ, 5生率は31.4%, 58.4%であり, 肝切除後再発率は73.1%, 35.7%であった. 再発例のうち肝単独再発は径20mm以下の多発例で原発巣が高分化型癌のものに多かった. 多臓器再発は異時性転移例や腫瘍径の大きいものに多く, これらは動注治療に加えて全身補助治療の適応と考えられた. 肝切除後再発の治療で切除が行われたのは4例で肝切除3回, 肺切除2回であった. 再発巣切除後の生存期間は8ヶ月~16ヶ月であるが3例が生存中であり, TAE等の他の治療法に比して延命効果が期待できた.

35) 保存的に加療し得た上腸間膜動脈閉塞症の1例

真部	一彦	尾池	文隆
長谷川	正樹	高木健太郎	(新潟県立中央病院)
山崎	信保	小山	高宣 (外科)
畠山	重秋		(同 内科)
関	裕史		(同 放射線科)

急性上腸間膜動脈閉塞症は急激な経過をとり, 不幸な転帰をとることが多い. 今回われわれは, 発症後約3時間で確診し, 保存的に加療して救命し得た1例を経験したので報告する. 症例は59歳男性. 既往歴:平成2年10月RINDにて当院脳外科入院. この時Afを指摘され, 以来治療を継続していた. 現症:平成4年2月2日Speech disturbanceにて当院脳外科入院. RINDの診断で加療. 退院予定であった. 平成4年2月10日朝食後より心窩部痛を訴え, 各種鎮痛剤を使用しても軽快しないとして紹介された. 上腹部に軽度の筋性防御認め, 既往歴などから上腸間膜血管の閉塞を考えた. 緊急CTとAngioでSMA血栓症と診断. 直ちにSMAよりウロキナーゼの投与を行った結果, SMAの再開通が認められ, 自